

投稿 (翻訳文献)

ARL は SPARC プロジェクトを通して 学術出版における競争を促進する

Mary M. Case^{*1} 著
時 実 象 一^{*2} 訳

学術雑誌出版において、大手出版社の寡占状態により価格の高騰、図書館・教育における公正利用の制限の恐れなどが生じている。これに対抗するため北米の大学図書館を中心とする研究図書館協会 (Association Research Libraries: ARL) は SPARC プロジェクトを発足した。これは既存の高価格の雑誌に代わる新規の雑誌出版を学会・出版社等呼びかけ、そのベンチャーを支援するものである。

キーワード：雑誌出版、雑誌購読価格、寡占、出版社、図書館、公正利用、著作権、ARL、SPARC

1. はじめに

学術出版のシステムは、大学の論文著者の知的財産をめぐる複雑なプロセスである。最近まで、大学側としてはこの著作権を出版者に譲渡するのが通例であった。知的財産とこれに付随する権利に対して、出版者は投資する価値を認めてきたのである。幾世代にわたり、主として学会と大学の出版局が中心となったこのシステムは、著者、出版者、および教育・研究社会に貢献してきた。しかし1960年代に至り、この伝統的なチャンネルは、急速に拡大しつつある高等教育システムから吐き出される出版要求に十分には答えられなくなった。商業出版社がこの需要を満たすべく参入してきた。いくつかの出版社はこうした出版事業、特に科学・技術・医学における出版事業はなかなか魅力があると考へた。中でも数社が特にこのマーケットの開拓に熱心で、価格政策や、他の出版社の買収、著作権の強固な保護のための法制化を含め、将来の利益を確保するために全力を尽くしてきた。

こうした価格上昇圧力に抵抗する重要な戦略のひとつは、大学からの最良の研究成果を出版するための、

*1 マリー・M・ケース ARL (Association of Research Libraries) 学術情報流通室部長

*2 ときざね そういち 科学技術振興事業団 客員情報員、
(株)日科情報

〒102-0081 東京都千代田区四番町5-3
Tel. 03-5214-8402

(本論文は Mary M. Case 氏の ARL, (196), 1998 の論文 “ARL Promotes Competition through SPARC: The Scholarly Publishing & Academic Resources Coalition” <<http://arl.cni.org/newsltr/196/sparc.html>> を許可を得て翻訳したものである。)

(原稿受領 1999.1.25)

質が高く、かつコストに見合った新しい出版ルートを開拓することである。この線に沿って ARL は最近 SPARC (Scholarly Publishing & Academic Resources Coalition: 学術出版と大学の資源との協力) と呼ばれるプロジェクトを承認した。このプロジェクトの目的は学術出版市場での競争を促進することである。

SPARC は ARL およびその他の教育研究機関との協力事業である。その任務は、

- 新規出版・情報製品を支援し、著者・編集者・委員会などを組織することにより、新規出版事業に機会を与え、研究情報市場にもっと競争を導入すること。
- 研究・教育において情報にアクセスできることの学術的価値、電子的情報環境において公正な利用と、図書館や教育目的での利用が継続できること、学術情報の倫理的な利用の重要性を訴えること。
- 学術情報流通を促進するような新規技術の展開を支援すること。これには新規な製品の企画や実験における協力、インターネット²⁾などの電子ネットワークの応用としての新規な出版モデルの開発、研究業績の蓄積と管理のためのシステムや標準の開発などが含まれる。

2. 市場の動向

大部分の大学教授と図書館員は、大学・研究図書館における定期刊行物の中止という年中行事に慣れっこになっている。ますます明らかになってきているように、この中止は単に自分のところの事情による一時的なものではなく、教育機関が手が届かないような価格を設定するという、市場の強制が原因である。ARL の統計によれば、この10年間において定期刊行物の単位価格は147%上昇した。1986年以降 ARL の各図書館は

数十万ドルに相当する雑誌の購読を中止し、124%よけいに支出したにもかかわらず、7%少ない雑誌数しか購読できないこととなった。この同じ期間に ARL 各図書館の単行本への支出は29%増加し、点数は21%減少している。

価格の上昇は、大学からの研究成果の増加に見合ったページ数と論文数の増加によってある程度は正当化されるとはいうものの、若干の商業出版社は製作経費をはるかに超えた価格を設定していることを疑わせる事実がある。1989年に Economic Consulting Services, Inc. (ECS) は ARL の依頼した購読価格と出版経費の動向に関する調査報告を提出した。調査は米国および欧州の主要4出版社の100雑誌についておこなわれた。ECS の報告によれば1973-1987年の間に出版社の利益は40-137%増加した。かつこれらの出版社の経費の増加は、研究図書館が支払う価格上昇を正当化するものではないことを示唆している。

中でももっとも利益の上がっている学術出版社は、英国を本拠とする世界最大の出版・情報会社 Reed Elsevier である。1996年の連結決算報告書によれば、34億ポンド(57億ドル)の売り上げに対して、20.82億ポンド(35億ドル)の粗利益を上げている(これは <http://www.reed-elsevier.com/combstat.html> に載っている)。税引き後利益6.04億ポンドのうち3.48億ポンドが株主に配当金として支払われ、2.56億ポンドが剰余となっている。この報告書の末尾の文章によれば、「前年までの業績も今回と大幅には違ってない」とのことである。

オランダに本部のある国際的な科学情報出版社 Elsevier Science は Reed Elsevier のもつ出版社のひとつである。ARL が最近集めたデータによれば、ARL の各図書館は Elsevier Science から平均して378雑誌を購読し、62.8万ドルを支払っている。これは図書館の定期刊行物数の3.5%にあたるが、金額的には21%にも上る。これを外挿すると、ARL 会員の121図書館は Elsevier Science の雑誌を購入するのに毎年7500万ドルを支払っていることになる。すなわち米国およびカナダの研究図書館の図書購入予算の相当部分が、たったひとつの会社のために費やされていることになる。

これは、Elsevier Science は、研究図書館が購読する雑誌の中でも特に高価なものを出版しているからである。付録の表にはこれらの雑誌名と1995-1998年の間の購読価格の上昇をまとめた。上昇率は43.5%から65.8%に及んでいる。

3. 買収・合併による市場寡占

また出版産業のもうひとつの傾向が図書館の購入費

に影響を与えていると思われる興味深い事実がある。すなわち主要な出版事業の寡占化である。Reed Elsevier は1993年に合併によって誕生したが、その後極めて意欲的に買収・合併を進める戦略を採ってきた。Reed Elsevier は現在欧州と北米においてたとえば Bowker/Saur, Butterworth's, Shepard's, Lexis-Nexis, Congressional Information Service などの出版社を所有している。Web サイトにもあるようにその国際的企業戦略は「所有すべき」情報に集中し、「有機的成長と吸収」によって発展を続ける」というものである。この戦略には他社を買収するだけでなく、学会・協会の雑誌を購入したり発行契約を結んだりすることも含まれている。

1997年10月に Reed Elsevier は Lippincott/Raven など多くの欧州の会社を保有する Wolters Kluwer と合併する考えを明らかにした。この Elsevier Wolters Kluwer と称する新会社は New York Times (1997年12月29日)によれば「専門家向け、およびビジネス向けの雑誌の世界最大の出版社となり、1997年の合計売り上げは80億ドルに達する」。これは欧州と米国の規制当局の関心と呼び、この合併に対する調査がおこなわれた²⁾。しかし吸収の勢いは衰えていない。1997年12月には Elsevier Science はドイツの非営利機関である Beilstein Institute と、Beilstein のデータベースとハンドブックの独占的販売権について交渉中である、と発表した³⁾。1998年1月には Engineering Information, Inc.が、その名称も含めほとんど全部の資産を、新規に設立された Elsevier Engineering Information に売却する、との発表を顧客に対しておこなった⁴⁾。

法律・ビジネス分野でも出版社の統合は進みつつある。とくにカナダの Thomson Corporation は他の出版社の買収に非常に熱心である。Thomson は Institute for Scientific Information, Gale Research, West, Warren Gorham Lamont など所有している⁵⁾。1996年に Thomson が West Publishing を買収した際、規制当局から、所有している相当数の法律関係の雑誌を売却するように指導された。これらの雑誌は Reed Elsevier が所有する Lexis-Nexis が購入した。こうした巨人の間のやり取りの例としては、12月に Thomson はその子会社 Thomson Science を Wolters Kluwer に売却した事実がある。(Thomson の Web サイトのデータによれば、1996年の Thomson の専門家向け情報・出版社の収益は7.47億ドルで、営業収益の19%を占めている (<http://www.thomcorp.com/press/858133513.html>。))

最近の Reed Elsevier による Lexis-Nexis の買収から予想できるように、価格と利用形態は変化にさらさ

れている。9月時点において、ある ARL 会員図書館は、Lexis-Nexis の新しい教育機関向けサービスに対しこれまでの3.5倍も支払わなくてはならなくなったのに、利用はより制限されてしまった。これまでの購読価格が年間2.52万ドルであったのに対し、今度は8.7万ドルになっている。1997年に Elsevier が買収した雑誌の例としては Journal of Supercritical Fluids がある。この雑誌は Polymer Research Associates が発行していて、購読料は年間275ドルであったが、1998年の購読料は657ドルとなってしまった。

4. 法律制定による製品の保護

少数の巨大商業出版社による出版事業の寡占進行の問題点は高価格だけではない。著作権所有者の権利がその著作物に対してどこまで及ぶのかという問題がある。昨年、学術情報流通に関心を持つ人々、とりわけ図書館が、デジタル化されネットワーク化された環境においても著作権法を適正に運用するようにと主張して活発に活動した。しかし、印刷媒体において成功的に最大収益を追求してきた同じ商業出版社が、著作権所有者の知的財産への独占と保護を強化するための法律制定のために精力的に動いている。その提案のいくつかは現在の著作権法を大幅に限定的なものに変更し、著作物の教育機関における利用のために設定されている公正利用、およびその他の条項を削除または制限することを目指している。

たとえば、1997年10月に下院に提出された H.R. 2652、「集積された情報の不正利用防止法」なる法案によれば、研究・教育のための情報アクセスは大幅に制限されている⁶⁾。この法案の主要な推進者である Reed Elsevier や Thomson は著作権法を修正し、「不正使用からデータベースを保護」しようとしている。もちろん出版社がその製品を守ろうというのは理解できるが、かれらがこれまで大きな収益を上げている事実から見ても、かれらのデータが「不正使用」されているという主張を裏付け、この法改正を要求するに足るような事実はない。ここで主張されている法改正は極めて広範なもので、ファクト・データから雑誌までカバーしている。教育・科学・研究目的の利用に対する許容は極めて狭く、役に立つものとはいえない。カリフォルニア大学の教務部長で学務担当副学長である C. Judson King は「H.R.2652は学術機関のエンジンであるところの自由な情報と意見の交換を妨害するもので、したがって新規な知識の流通と生産が阻害されるであろう」と述べている（1997年10月29日の Howard Berman 上院議員への手紙）。Reed Elsevier と Thomson の意図は価格政策と吸収合併によって最大収益を

図るだけでなく、教育と公共財を犠牲にすることにより、この売り上げの流れを未来に渡って保証するための法改正を追求しているのである。

科学・学術出版市場の現状は、高等教育機関が上昇する価格と出版量に見合った図書館予算を確保することを困難にしている。同時に、著作権者の「知的財産に対するアクセスの制限」を拡大する法規制の企てにより、デジタル情報へのアクセスと利用が制限されようとしている。これに代わる流通経路、「新規参入」、「競争の促進」、「新しいモデル」を、とくに定期刊行物分野において導入することが、明白かつ焦眉の課題となっている。

5. なぜ SPARC を、なぜ今？⁷⁾

10年前にも、競争の促進が、定期刊行物の価格上昇に対抗する主要な戦略として位置づけられた。しかし実現は遅々としている。しかし様々な条件が重なって、現在学術情報流通の変革が可能な状況になってきた。

- 学術情報流通の新しいモデルが、今日経済的・技術的に可能になった。インターネットと World Wide Web の発展により誰でも出版が可能になってきた。
- 新しい出版形態を模索する研究機関に対し、支援するパートナーが出現している。
- 図書館と大学が、その予算を新しい学術出版の支援に振り向ける用意がある。最近の大学管理者の会議でも、学術情報流通の問題を解決するために予算を投入する意志があることが表明された。各図書館が自分だけのことを考えていたのでは、現在の学術情報流通の基本的問題を適切に解決することはできない、ということに大学管理者が気づいたのである。大学社会の協力が必要とされている。
- 大学管理者は研究成果と学問の発信をおこなう現実的な道を開こうという努力を支持するだろう。

1997年6月30日に ARL の45機関の代表が集まり、電子出版のための資金を創設し、現在雑誌価格がもっとも高く、研究情報流通の変革の要求のもっとも強い分野において、新規参入しようという協力者を探そうという案について議論した。その結果数名の図書館長からなる作業委員会が ARL のスタッフと協力して計画を練ることになった。

この作業委員会は、図書館や教育機関と協力関係を結ぶことに関心のある協力者には次のようなものが考えられると報告した。

- 新規出版事業に関心のある学会と大学出版局
- 商業出版社に牛耳られている学術分野で電子出版を試みようとしている出版社
- 商業出版社のうち、その価格を抑え、研究情報への

アクセスを改善しようという意志のあるもの

- 学術情報の全く新しい流通形態の「ビジョン」— 研究機関や大学のサーバを使うモデルを含む— 持つもの

SPARC が考える協力関係は、その共同のゴールを達成するうえで、そのパートナーが持つ実力と事業環境の準備具合に依存している。また協力者は、学術・大学社会が重要と考える価値を共有しているか、学術社会における信用があるか、SPARC の目標に同意するか、出版の経験があるか、資源の提供の用意があるかなどの点から評価される。

この協力関係が成功するかどうかの鍵は、価値を共有しているかどうかにかかっている。SPARC が協力者に対して提案する価値は次のものである。

- 経費に見合った価格原理により出版事業を行いたいという新規参入者を支援することにより、学術出版の競争原理を育てること
- 知的財産の保護において、出版物の広範かつ容易な流通・再利用と、学術資源の倫理的利用を認める政策をとること
- 研究・学問の増進と発展のために、手に入る情報技術と流通手段を活用することを推進すること
- 学術情報流通の新しいチャンネルにおいて、研究者の昇進と地位の評価に必要な品質を確保すること
- デジタル形式のものも含め、研究出版物と学術情報の永続的な保管を可能にすること

この⁹⁾10月に ARL の理事会は、学術情報流通課に SPARC 理念の実現に向けた計画を立案するよう指示する決定を行った。SPARC の次の段階への発展を考える作業グループは、他の図書館、教育・研究機関を

SPARC の会員として含むことができるような提案を行うことになっている。また作業グループは1998年末までに少なくとも5つの出版企画を支援する事業計画と実施案を立案することになっている⁹⁾。この作業グループの今年の最初の重要な活動は、ARL 図書館に対して SPARC の資金提供会員となるよう勧誘することであった。現在までに ARL のほぼ50図書館が承諾している。作業グループの次の課題は SPARC の事業マネージャを選任することである。

学術研究成果へのアクセスを長期的に保証するためには、ARL は SPARC が、並行的に実施されなくてはならない数ある戦略のひとつに過ぎないことを理解している。その他に必要なのは、デジタル環境における著作物の公正利用とその他の図書館利用を保証するように議会に積極的に働きかけること、教授や大学がその知的財産権をより適切に管理できる方法を研究すること¹⁰⁾、大学の資格審査制度と出版の分離などである¹¹⁾。これらの戦略のどれもが教授、大学管理者、研究・学問社会の支持なしでは実現しない。斬新で、革新的で、かつ価格が適正な学術情報流通の将来を構築するために、必要な協力関係を築くひとつの努力として、ARL はこれら関係者ととも SPARC を推進していく考えである。

6. 終わりに

本論文に収録された企業の情報を収集してくれた Carson Holloway に感謝する。SPARC についての詳細な情報は <<http://www.arl.org/sparc>> を参照されたい。

表1 購読価格上昇の例

雑誌名	1995	1996	値上率	1997	値上率	1998	値上率	95年から98年への値上率
Brain Research	\$10,181	\$12,234	20.20%	\$14,919	21.90%	\$15,428	3.40%	51.50%
Biochim. Biophys. Acta	\$7,555	\$8,837	17.00%	\$10,528	19.10%	\$10,839	3.00%	43.50%
Chem. Phys. Letters	\$5,279	\$6,569	24.40%	\$7,818	19.00%	\$8,060	3.10%	52.70%
Eur. J. of Pharmacology	\$4,576	\$5,680	24.10%	\$6,431	13.20%	\$6,702	4.20%	46.50%
Gene	\$3,924	\$5,069	29.20%	\$6,144	21.20%	\$6,433	4.70%	63.90%
Inorganica Chim. Acta	\$3,611	\$4,476	24.00%	\$5,283	18.00%	\$5,540	4.90%	53.40%
Intl. J. of Pharmaceutics	\$3,006	\$3,915	30.20%	\$4,691	19.80%	\$4,983	6.20%	65.80%
Neuroscience	\$3,487	\$4,001	14.70%	\$4,543	13.50%	\$5,073	11.70%	45.50%
Theoretical Computer Science	\$2,774	\$3,425	23.50%	\$3,835	12.00%	\$4,059	5.80%	46.30%
J. of Exp. Marine Bio. & Eco.	\$1,947	\$2,445	25.60%	\$2,811	15.00%	\$2,931	4.30%	50.50%
Solid State Communications	\$1,945	\$2,327	19.60%	\$2,602	11.80%	\$2,871	10.30%	47.60%

注：実際に各図書館が支払った購読価格は異なっている場合がある。上記は1995-1997年の間に ARL の2図書館が支払った価格である。1998年価格は Elsevier Science のウェブページから取った。

訳注

- 1) <<http://www.internet2.edu/>>
- 2) 1998年3月にこの合併は中止となった。
- 3) 1998年2月に Elsevier Science は IHS および Beilstein Institute から Beilstein Information Systems を買収した。
- 4) 1998年1月に Elsevier Science が Engineering Information Inc.の出版事業を買収した。
- 5) よく知られているように Derwent Information も Thomson の子会社である。
- 6) この法案はこの際は成立しなかったが、1999年1月に再提出されている。
- 7) SPARC のホームページは <<http://arl.cni.org/sparc/>>。
- 8) 1997年。
- 9) 1998年中に SPARC プロジェクトに基づき次の3つの計画が発表された。
 - ① 米国化学会 <<http://arl.cni.org/sparc/acspr.html>> : 今後3年間、毎年最低1誌の新雑誌を創刊、最初は有機化学の速報誌、Organic Letters で1999年7月創刊の予定。
 - ② 英国王立化学会 <<http://arl.cni.org/sparc/rsc.html>> : 電子ジャーナル、PhysChemComm を1999年

から創刊。

- ③ アリゾナ大学 <<http://arl.cni.org/sparc/eer.html>> : Michael Rosenzweig 教授が Evolutionary Ecology Research を1999年1月から発刊。
- 10) 著者の説明によれば、これは著作権のうち若干の権利(たとえばその論文を自分のウェブサイトに掲示する権利、教室で使用する権利、同一機関の他の教師が教材として利用する権利、など)を出版者に渡さず大学が保有するという提案である。さらには出版者には冊子体または電子体での著作権のみを与え、著作権は大学が保有するという考えもあるとのことである。もちろん大学と著者が共同で著作権を持つという考えもある。
- 11) 著者の説明によれば、現在大学はその教官の評価において、出版者がおこなっている査読の結果を利用している。大学がこの査読工程に要する費用を学会に対して支払うことにより、出版者の役割は出版のみとなり、大学への影響を排除できる。すなわち、そのような査読委員会が審査した論文を適当なウェブサイトに掲載するという新しい慣行を作ることもできるかもしれない。この査読委員会と出版母体は同一機関にある必要はない。これについては <<http://www.econ.rochester.edu/80/Faculty/PhelpsPapers/arl.html>> を参照されたい。

ARL Promotes Competition through SPARC: The Scholarly Publishing & Academic Resources Coalition, Mary M. Case (Director, ARL Office of Scholarly Communication), Soichi TOKIZANE (Japan Science and Technology Corporation, Nikka Joho (5-3 Yonban-Cho, Chiyoda-Ku, Tokyo 102-0081))

Abstract : Scholarly publishing is dominated by a few, large publishers, which has caused the rapid increase of subscription prices, and threat to the fair use at libraries and education. To counteract these trends, ARL started the SPARC project where it will cooperate with academic societies or publishers to pursue new publishing venture as an alternative model to the existing highly-priced journals.

Keywords : journal publishing / oligopoly / journal subscription price / publisher / library / fair use / ARL / SPARC